

## イネ墨黒穂病の被害軽減対策

古川農業試験場

### 1 取り上げた理由

平成14年度および15年度に多発し、落等被害などをもたらしたイネ墨黒穂病について、乾燥調製作業による汚損粒（硬膜胞子による玄米の汚れ）被害軽減対策や化学合成農薬による防除効果を検討したので参考資料とする。

### 2 参考資料

- 1) イネ墨黒穂病による汚損粒の被害は、発病粒の混入率が多い程、また、玄米の肌ズレ発生程度が高い程、大きくなる（図1）。
- 2) イネ墨黒穂病の被害軽減対策として、肌ズレの発生が軽減されるインペラ式粉擦機の使用が有効である（図2）。
- 3) シメコナゾール1.5%粒剤（3kgまたは4kg/10a）の出穂2～3週間頃の水面施用により、墨黒穂病の発生を予防的に抑制できる（図3、4）。また、フェリムゾン・フサライド水和剤（1,000倍液 150ℓ/10a）の出穂後散布も同様に効果がある。

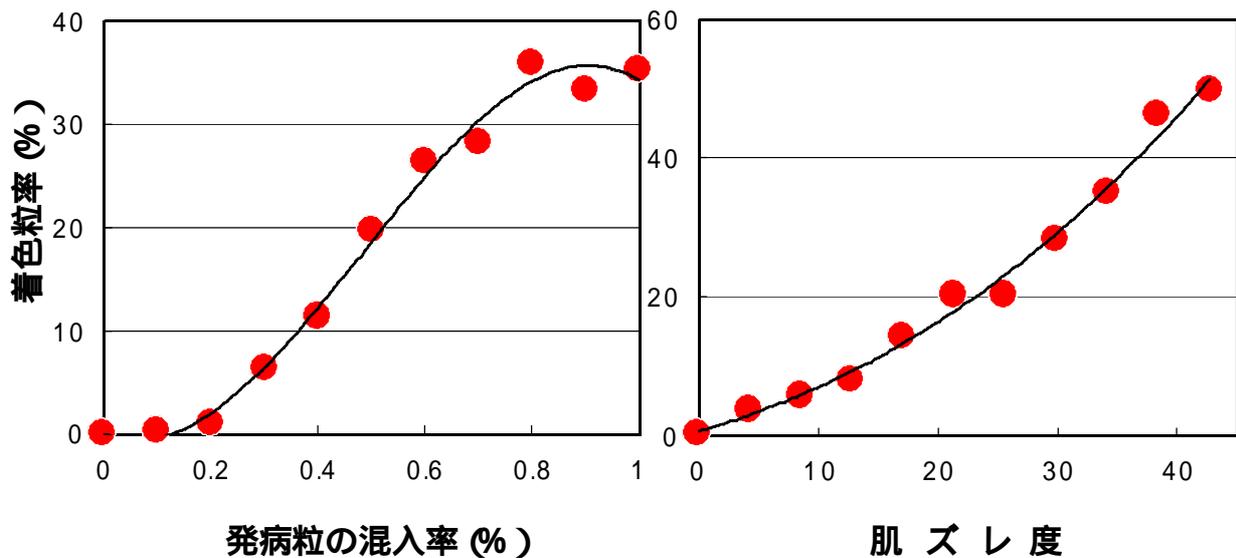


図1 墨黒穂病発病粒の混入率および肌ズレの発生程度と着色粒の関係

注) 混入率との関係は、ロ-ル式粉擦り機で肌ズレ度 18.3の玄米をインペラ式粉擦り機で粉擦りした玄米1,000粒に発病粒を混入し、ビニール袋に入れ50回手で摩擦した。その際の肌ズレ度は35.2。

肌ズレ程度との関係は、肌ズレ度 42.7の玄米を肌ズレ度1.1の玄米で段階的に希釈した。玄米発病粒の混入が1%の玄米1,000粒を、ビニール袋に入れ50回手で摩擦した。

$$\text{肌ズレ度} = \text{肌ズレ度} = (A \times 0 + B \times 1 + C \times 2 + D \times 3) \times 100 / \text{調査粒数} \times 3 \quad (A, B, C, D \text{は小南らの分級基準})$$

### 3 利活用の留意点

- 1) シメコナゾール1.5%粒剤（商品名：モンガリット粒剤）は、紋枯病、稲こうじ病にも登録があり、3病害を同時防除可能である。
- 2) フェリムゾン30%・フサライド20%水和剤（商品名：ブラシン水和剤）は、穂いもちとの同時防除が可能である。

（問い合わせ先：古川農業試験場作物保護部 電話0229-26-5108）

#### 4 背景となった主要な試験研究

##### 1) 研究課題名及び研究期間

新農薬による病害防除試験，発生予察技術支援対策事業：平成15～16年

##### 2) 参考データ

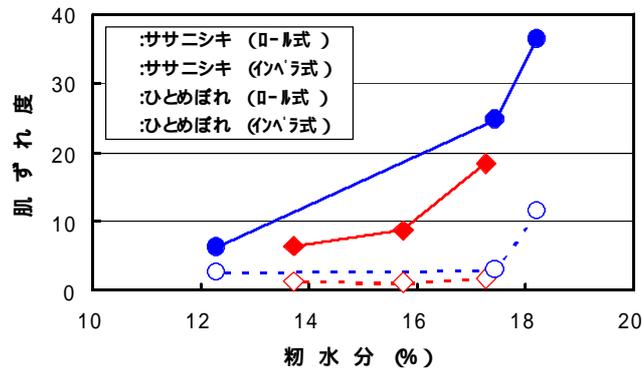


図2 「ササニシキ」及び「ひとめぼれ」の籾擦り形式と籾水分による肌ずれの発生

注)9月15日に収穫し、ハウスで10月4日まで乾燥し脱穀した。その後室温で保存し、随時的に籾水分を計測し、籾擦りした。

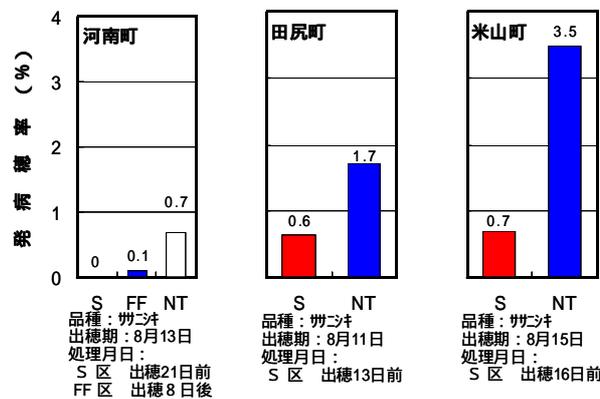


図3 シメコナゾール粒剤及びの墨黒穂病に対する防除効果 (平成15年)

注)S:シメコナゾール粒剤(4kg/10a)FF:フェリムゾン・フサライド水和剤(1,000倍液,150l/10a) NT:無処理

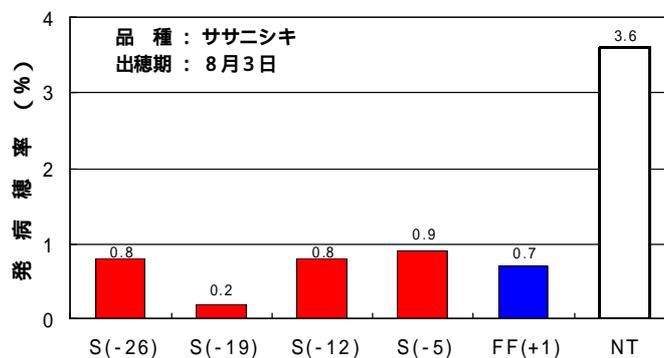


図4 シメコナゾール粒剤及びフェリムゾン・フサライド水和剤の墨黒穂病に対する防除効果 (平成16年:田尻町)

注)S:シメコナゾール粒剤(3kg/10a)FF:フェリムゾン・フサライド水和剤(1,000倍液,150l/10a) NT:無処理 ( )内は出穂からの日数。

##### 3) 発表論文等 特になし